トノ關係（中外醫事新報．第一〇一一號）．　17）田澤鐮二，「ヴィタミン」B缺乏ト結核トノ關係．結核．第三卷．第一號．　18）田澤鐮二，尾寺殿治，我國ニ於ケル大氣療法ノ實施ニ就テ．「結核」第三卷．第三號．　19）宮川米次，肺結核患者ト其體重．結核．一卷一號．　20）東京市療養所醫局同人，「ヴィタミン」Aハ果シテ結核ニ有效ナリヤ．結核．二卷一號．　21）遠藤敬清，村尾圭介，肺結核患者ノ腋窩檢溫ニ就テ．結核．一卷一號．　22）川上理作，肺結核患者血壓ノ臨牀的觀察．結核．三卷二號．　23）高橋夏樹，結核患者ノ血壓ニ關スル知見補遺．結核．一卷二號．　24）佐藤秀三，醫學的氣候學小論．結核．三卷二號．　25）鳥潟豐，「サナトリウム」ニ於ケル臨牀的操作．結核．一卷三號

宿題演說「肺結核ノ一般療法」ニ對スル附議

梅村鍬三郎

醫學博士　山北又十郎

一

結核療法ニ對シ精神的方面ニ重キヲ置クベシ。

二

結核ノ一般療法ニツキテハ有馬及ビ田澤兩氏ノ御報告ニヨリ詳細ツクセリト思ハル、モ、余ハ二三ノ實驗談ヲ申上ゲ諸君ノ御參考ニ供シタイノデアル。有馬氏ハ結核下熱劑ニツキ「ピラミドン」及ビ「ヒニン」劑ノ配合ヲ御ス、メノ樣デアルガ、余ノ經驗デハソレラデハ中々效ガナイ、余ハ「ピラミドン」ニ「ピノザリン」ノ配合ガ最モ有效ノ樣ニ思フタ。祛痰鎭咳劑ニツキテハ巷間新藥ト稱シテ數多アレド、廣告通リニ有效ナモノハ一ツモナイ、實際ハ「コデイン」、「モルヒネ」等ノ痲醉藥ガ第一ダ。盜汗ニ對シテ有馬氏ハにんにく製劑ノ注射藥ガ良イトイハレタガ余ノ保養園デハ五年來にんにく製劑ヲ內服セシメテ居ルガ他ノ症狀ニ對シテハ有效ト思フ場合ガ多イガ特ニ盜汗ニ有效トハ思ハレヌ。次ニ喀血藥ノ話デアルガ、近來發賣ノ肺臟々器製劑デアル「クラウデン」ハ使用ガ便利デ有效デアルト思フ場合ガ多イ。「ゲラチン」ヤ「カルチウム」、食鹽水ニ比シ劣ラヌ。結核ノ呼吸困難ニ對シテハ强心劑及ビ酸素ノ吸入ヲ推奬スル、酸素吸入ノ效果ニツキテハ余ハ動物並ニ患者實驗ヲナシ、既ニ大正十年ノ內科學會デ報告シタ、酸素吸入ノ效果ハ之レヲ吸入セシメテ居ル間ノミ血液瓦斯ニ對シ效果アリ、酸素吸入ヲ十分カ二十分丈ヤッテヤメテシマフノハ何モ效ガナイ。結核患者ノ下痢、

腸結核ニ對シテハ從來何モ效ガナイ、臨牀家ガ常ニ困ル所デアルガ、之レニ對シテ余ハ「ヨードフォルム」ノ内服ヨトニ硝蒼ナド、合劑トスレバ非常ニ效果ガアリトハ既ニ實驗醫報上ニ發表シタ、コノコトニツキテハ有馬氏モ引用サレテ居ル。次ニ「ヴィタミン」Aト結核トノ關係ナルガ、余ハ大正十二年北研ノ大坪氏ト共ニ「マウス」ニツキ結核感染試驗ヲヤツタガ「ヴィタミン」Aノ投與如何ニヨリ何モ影響ガナカツタ、コレハ有馬氏ノ說明ト同意見デアル。田澤氏ハ太陽燈デ腸結核ガ良クナツタ一例ヲ報告サレタガ、余ハ結核性腹膜炎ニ對シテハ中々有效デアルトイフ經驗ヲ持ツテ居ル。

三

醫學博士　近藤　乾郎

有馬君ハ喀血ニ對シテ麥角及ビ其製劑ハ當ニ理論上ノ根據ナキノミナラズ、實用ノ價値モ亦ナシト斷定シテ居ラレルケレドモ既ニ數年前ニ麥角ニハ「ヒスタミン」類似ノ物質ガ含有サレ其ノ働キハ肺ノ血管ヲ縮小シ且ツ肺ノ容積ヲ減ズルト云フ報告ガアルカラ喀血ニ對シテ本劑ヲ用ユルコトハ決シテ理論上ノ根據ガ無イト言ハレナイ又實際用ヰテモ一定ノ效果ハアルヤウニ思ハレル。

喀血ニ對シテ最モ有效ナルハ肺抽出劑ト稱セラレル「クラウデン」デアルト思フ。他ノ注射藥ニテ止血シナカツタ例ニ本劑ノ注射ガ確カニ效ガアツタヤウニ思ハレタ數例ニ遭遇シタ。之レト「アナプトールゲラチン」ヲ互用スルハ最モ當ヲ得タルモノト思フ、又濃厚食鹽水竝ニ「カルチウム」モ一定ノ效ヲ奏スルコトハ疑イナイ、而シ此ノ兩者ノ混合溶液ノ方ガ一層效果ガアルヤウデアル。

肩ノ凝ハ有馬君ノ言ハレルヤウニ胃内ノ異常醱酵ニ因スルモノモアルガ、其ノ本態ハ神經衰弱ニ因ル筋萎弱ノ一分症ト見ルガ最モ適當ト考ヘラル卽チ胃腸ノ關係モ神經性消化不良症ノ症狀ヲ呈スルコトガ最モ多イヤウデアル從ツテ重曹「ブローム」劑苦味丁幾等ノ混用ガ大ニ效ヲ奏スル。重曹ハ今日迄多ク「アルカリー」劑トシテノミノ效力ガ考ヘラレテ居ルガ此ノ如キ胃部膨滿ヲ訴ヘルヤウナ患者ニハ胃腸ノ運動ヲ亢進セシムル作用ガ大ニ意味ヲナスノデアル、故ニ便祕ニ傾イテ居ルヤウナ場合ニ殊ニ有效デアル、實際肩凝ヲ訴ヘルヤウナ患者ハ便祕ニナヤムコトガ多イ、又演者ハ肩凝ノミ

ヲ注意シテ居ラレタガ本患者ノ大部分ハ同時ニ腰ノ凝ヲ訴ヘルモノデアルカラ、此ノ方面ノ注意モ必要デアル、肩凝ガ肺尖癒著ニ因ル牽引痛ナルコトハ稀デアルヤウニ考ヘル。

沃度ノ少量ノ應用ガ北研ノ大谷博士ニヨリテ數年來唱ヘラレテ居リ一定ノ效果ハアルヤウデアルガ、元來沃度ハ「くせもの」デアルカラ適應症ニ注意セナケレバナラヌ、殊ニ比較的大量ヲ用ユル場合ニ大ニ注意ヲ要スル、砒素ハ亞細亞丸トシテ四ケ月連用法ヲ好ンデ適應症ニ用ユルガ、多クノ場合滿足ノ結果ヲ得テ居ル、又「アトキシール」モ既ニ十數年來好ンデ使用シテ居ル。

胃腸疾患ニ果シテ今日販賣セラル、所謂「ヂアスターゼ」類ガ必要缺ク可カラザル藥劑デアルカハ大イニ疑ガアル私ハ少ナクトモ「ヂアスターゼ」類ガ亂用セラレテ居ルコトハ確カデアルト思フ、高龜君創製ノ如キ非常ニ强力ナモノガアルトスレバ一定ノ場合ニハ必要缺ク可カラザル物トナルデアラウ、米飯ノ過食ヲ戒シムルコトハ大贊成デアル、本病患者殊ニ先天虛弱者ニシテ胃腸ノ下垂「アトニー」ヲ有スル患者ハ米飯ノ不消化ヲ訴フルコトガ殊ニ多イカラデアル。熱ハ外敵ノ侵入ニ對スル全體ノ反應デアルカラトテ之レヲ抑制シ若シクハ除去スルヲ不可トスルニハ與セヌ、熱ハ胃腸障碍ト俱ニ體力消耗ノ最大原因デアリ之レヲ抑制シ除去スルコトニ依テ體力ノ消耗ヲ輕減スルヲ得ルモノト信ズルトノ演者ノ考ヘハ至當デハアルガ其ノ方法手段ガ問題デアル。凡ソ解熱劑ガ同時ニ心臟ニ對シ一定ノ惡影響ヲ及ボスコトハ周知ノコトデアル故ニ精神肉體ノ安靜其他ノ理學的方法ヲ主トシ、解熱藥ヲ成ル可ク用ヰザルヲ原則トシテ止ムヲ得ザレバ成ル可ク少量ノ解熱藥ヲ種々混用スルヲ最モ至當ト考ヘルソレニハ「ヒニーン」、「ピラミドン」モヨイガ「ピノザリン」ハ有效無害持長ニ適當ノヤウニ思ハレル「クリオゲニン」モ有效デアルヤウダガ時ニ副作用ガアルヤウデアル「ヒニーン」ハ好ンデ少量ヲ連用スルガ解熱藥以外ニ「トーニクム」トシテ殊ニ意味ガアルヤウデアル而シ細胞毒デアルカラ大量ノ連用ハ大ニ注意ヲ要スル。

盜汗ニハ何ントイツテモ藥劑トシテハ「アトロピン」ガ最モヨイト信ズル。注意シテ用ユレバ決シテ副作用ハ恐ルヽニ足ラン。

咳嗽ニ對シテ祛痰劑ノ亂用ハ今日ノ通弊デアル此ノ點ハ演者ト全ク同感デアル而シ實際ニハ喀痰ノ爲メニ起ル咳嗽ト刺戟性咳嗽乾咳トガ同時ニ存スルコトモ多イカラ注意ヲ要スル、此ノ意味ニ於テ祛痰劑ト鎮咳劑トガ同時ニ處置セラルヽトモ決シテ矛盾デナイ、結核患者ニ「モルヒニスムス」ガ起リ難イトハ誠ニ卓見デアツテ余モ亦其ノ感ガアル、之レハ將來大ニ研究ス可キ問題デアル。

貧血ハ重要ナル症候デアル鐵劑、砒素劑、其他ノ療法ノ外食餌法殊ニ蛋白ノ充分ナル供給ガ大ニ意味アリトハ我々ノ經驗デアルガ最近中村氏ノ研究ニ因リ學問的ニ此ノ事實ノ根據ヲ得タルハ快事デアル。

十二指腸蟲驅除ニ「ワクチン」應用ハ若シ成功スレバ大ニ注目ス可キコトデアル、然シ十二指腸蟲驅除ハ比較的簡單デアツテ本蟲ヲ除クニ入院ノ必要普通ナク外來デ勞働シツヽ二週間位デ驅除出來ルコトハ私ガ三河ニ於ケル七年間ノ多數ノ經驗ニ因ツテ確デアル。又齋藤博士ノ嘗ツテ提供シタ通リ絶食サセル必要ハ入院サセテ急ニ驅蟲ヲ要スル場合デモナイノデアル、又本蟲ノ驅除ガ困難トセラルヽハ「チモール」ヲ使用シ本藥ニ抵抗力强キ「トリコストロンギールス」ノ卵ヲ誤マツテ居タカラデアル、殊ニ東京ニハ嘗ツテ私ノ所ノ横山君ガ調ベタ如ク「トリコ」ノ卵ガ多イカラ注意ヲ要スル、「子マトール」ハ「トリコ」ニ對シ「チモール」ヨリモ有效デアル。

次ニ田澤君ニ對シテ。既ニ第三回結核學會ニテ田澤サンカラ報告ノアツタ當時追加トシテ述ベタ如ク、日本ニ於ケル開放療法ハ同君ノ言ハル、如クデアル、又其當時述ベタ如ク熱性疾患ニモ漸次開放的療法ヲ應用シツヽアルガ良結果デアル、嘗ツテ新潟醫科大學ニ居ツタグレッフ氏ハ日本ニテハ北海道デ開放療法ヲヤツタラ最モ效果ガアルデアラウ北海道ガ日本ニ於テ結核治療ニ適當ナ土地デアルト私ニ話シタ。過度ノ肥滿ハ却テ害アリトハ今日迄多ク脂肪肥滿ヲ意味シテ居ツタガ筋肉ノ過多モ有害殊ニ心臟ニ對シテ一種ノ寄生蟲デアルトノ言ハ誠ニ意味深キモノトシテ傾聽シタ而シ私ハ適度ノ肥滿ハ縱令脂肪肥滿デモ本療法ニ必要デアルト信ズルモノデアル、殊ニ最近脂肪ノ新陳代謝上ノ意義ガ蛋白質同樣ノ意味アルト唱ヘラルヽニ至ツテ吾人ノ考ヘヲ裏書キサレルヤウニ思フ。

四

一、「ヴィタミン」B缺乏症ト脚氣トノ間ニハ大ナル關係ノ存スルハ事實ナルモ、「ヴィタミン」B缺乏症ハ卽チ脚氣ナリテウ說ニ至ツテハ、今尙ホ一致シナイノデアリマスガ、先ヅ此問題ハ別ト致シマシテ、脚氣ト肺結核ソレハ共ニ肺動脈ノ第二音ノ亢進ガ共存スル等ノ諸點ヨリ推理シテ、結核ト脚氣トハ因果的關係ガ深イ樣ニオ話ガアリマシタガ、東洋及ビ泰西ノ肺結核ニ於ケル統計ニ徵シマシテモ、脚氣ノ少ナイ泰西ニ於テハ、結核ノ發病率カラ見テモ、又死亡率ノ上ニ於テモ、之レガ爲メニ特ニ著シキ差違ノナイ點カラ推シマシテ、「ヴィタミン」B缺乏症卽チ脚氣ト結核トノ間ニハ合併症以外左程密接ナル重大關係ガアル樣ニハ思ハレナイノデアリマス。況シテ吾人ハ解剖臺上ニ於テ全ク脚氣ノ既往症モ現症モナキ例ニ於テ、併モ肺臟ニ滲潤ガ存在セル場合、肺循環ノ血行障碍ハ爲メニ右心室ノ擴大ヲ惹起セルコトノ稀ナラザルヲ認ムルノデアリマス。但シ我ガ國ニ於テハ白米ヲ主食トセル習慣上「ヴィタミン」B缺乏症ニ陷リ易キコトノ免レザルガ故ニ、肺結核ニ於テハ勿論、他ノ一般諸病ニ對シテモ常ニ玆ニ留意スルヲ當然ノコト、思考スルノデアリマス。

二、只今某氏ノ附議中「ヴィタミン」Aハ結核白鼠ニ對シテ何等影響ガナイト申サレマシタガ、私ガ結核「モルモット」ニ行ヒマシタ實驗ニヨリマスト、兎角急性ノ經過ヲトリ易キ傾向ヲ有スル「モルモット」ノ結核ヲシテ、ヨク慢性ノ經過ヲ辿ラシメ榮養ノ增進ハ延テ結核病竈ヲ治癒ニ導ビキタルガ如キ所見ヲ目擊シタノデアリマス。結核白鼠ト結核「モルモット」、此ノ種族上ノ相違ガ多少ノ懸隔ヲ齎ラスベキハ首肯セラレ得ベキモ、尙ホ其ノ他ノ實驗上ニ於ケル諸條件ヲモ亦大ニ考慮セナケレバナラナイ點ト惟フノデアリマス。之レニ關シマシテハ曩ニ雜誌結核第三卷第九號ニ於テ發表シテ置キマシタカラ御參照下サイ。

五

由來肺結核ノ治療ニハ種々ノ條件ヲ必要トナス、就中藥物的療法ハ動モスレバ輕視セラルヽノ傾ナキニアラザルモ、病者當面ノ苦惱ヲ緩徐ス可ク醫俗共ニ殊ニ實地醫家ニアリテハ甚ダ重要ナル事ニ屬ス。而シテ吾人ガ臨牀上藥物ノ效果ヲ論ゼントスルニ當リテハ常ニ公正ナル態度ト且ツ愼重ナル注意トヲ要ス、何トナレバ結核病ノ治療ニハ上述ノ如ク種々

醫學博士　櫓　林　兵　三　郎

ナル條件ノ綜合的效果ノアルアリ、病者ノ體質、病態ニ差異アリ、各醫人ニ又藥物使用上ノ習癖アレバナリ、故ニ余ハ小異ハ捨テ、之レヲ論ゼス、唯余ノ卑見ト大ナル相違アルモノ、ミニ就テ述ベントス。

一、解熱劑中「エルボン」ニ就テ有馬博士ハ其ノ效果ノ甚ダ疑ハシキヲ述ベラレタルモ、余等ノ年來ノ經驗ニ由ルニ「エルボン」ノ效果ハ甚ダ顯著ナリ(勿論奏效ヲ見ザル場合モ時々アリ)、而モ他ノ類似品ニ優ル、更ニ近藤博士附議中ニアル「クリオゲニン」モ解熱劑トシテ實際有效明ナル場合アルモ本劑ハ其ノ一日量〇・五瓦ノ一週日連用ニヨリテ、既ニ全身浮腫ヲ起ス場合アリ、他方余等ガ動物試驗ニ徵スルモ短時日ニシテ貧血ト共ニ腎臟上皮ノ高度ナル變性ヲ將來ス、故ニ「クリオゲニン」使用ニ當リテハ大ニ警戒セザル可ラズ。

一、盜汗、結核症ニ於ケル盜汗ハ元來其ノ原因明ナラズ、必ズシモ植物性神經系統ノ異常ニノミ由來スト考ヘラレズ、「アドレナリン」注射、又ハ「アトロピン」使用ニ因リテ效果ヲ認ムル事アリト雖ドモ勿論持續的ナラズ、却テ嫌ム可キ副作用ノ輕カラザル發現ナキニアラズ、余等ハ「カンフル」酸ノ內服又ハ「Tbc.「フォルマリン、アルコホル」ノ塗布ニヨリテ充分所期ノ效果ヲ收メツ、アリ

一、喀血、ニ對スル藥物ノ效ヲ論ズルニ當リテハ必ズ先ヅ喀血ノ由來スル動機竝ニ原因ヲ思考セザル可ラズ。余ハ「アナブトール、ゲラチン」ノ靜脈內注射又ハ「クラウデン」ニヨリテ相當ノ奏效ヲ見ル、(治療及ビ處方誌上余ノ病院長島論文參照)濃厚食鹽水ハ實質性出血ノ如キ輕度ナル場合ハ效ナキニアラザルモ屢〻却テ出血ヲ促スガ如キ場合ナキニアラズ、肺壞疽症ニ於テモ「テレピン」油又ハ「ミルトール」服用ニヨリテ顯著ナル止血、治癒作用ヲ認メ得ズ、寧ロ「子オサルバルサン」ノ少量數回注射ニヨリテ著シキ效果アルヲ常ニ經驗シツ、アリ。

一、十二指腸蟲ノ寄生ハ本邦ニ於テハ、實ニ意想外ニ蔓延シ肺結核病者ニシテ本蟲ノ寄生ヲ蒙レルモノ尠ナカラズ、殊ニ高度ナル場合ニアリテハ單ニ本蟲ノ寄生ノミニ由リテ貧血ト共ニ微熱ヲ發シ初期結核ト誤診セラル、場合サヘモアリ、有馬博士ノ本蟲「ワクチン」療法ハ甚ダ興味アリ。但シ余ガ日本住血吸蟲病治療研究ニ由ルニ寄生蟲ハ蟲體箇體ニ對スル毒物例ヘバ「ヒニン」使用ニ由リテ一時產卵ヲ中止シ、全ク死滅セル如キ感ヲ呈スルモ之ガ使用ヲ廢スル時ハ後日更

ニ産卵ヲ始ムル事アレバ其ノ治療效果ノ認定ニ注意ヲ要スルモノト考フ。

一、人工高山太陽燈ハ結核性腹膜炎ノ或ル時期ニ於テ大ナル效果ヲ認ムルハ田澤博士ノ所見ニ一致ス、但シ本照射ニ當リテハ病者ノ體質ニヨリテ距離一米、僅カニ三分間ニシテ皮膚ノ發紅竝ニ嘔氣ヲ來ス事アレバ使用上、一定ノ考慮ヲ要ス。

六

醫學博士　高田　畊安

有馬博士ハ損ナ割リ當テヲ受ケラレタノデアリマシテ、肺結核ニ對スル藥物療法ハ失敗ノ歷史デアリマス、藥物療法デ不治ナリシ者ガ理學的食餌的療法ニ依ツテ治癒スルコト、ナツタノデアリマス、又藥物的一般療法ト云ヘバ單ニ熱ニ對スル治療ト思フテ居リマシタガ、有馬博士ハ肺結核ニ對スル特效藥ヲモ症候藥ヲモ御話シニ成リマシタ所ヲ以テ見マスルト寧ロ肺結核藥物療法一般ト題スル方ガ穩當ト考ヘマス。熱ニ對シテ「キニーネ」ヲ用ヰレバ喰細胞ノ作用ノ制止ノ虞ガアリマスカラ、私ハ當時之ヲ用ヰヌコト、致シテ居リマス、而シテ主トシテ「ピラミドン」、「ピノザリン」、「アスピリン」等ヲ用ヰテ居リマス「ピラミドン」ハ決シテ〇・六以上ヲ用ヰマセヌ〇・六デ效ヲ奏セヌ場合ニハ其以上ヲ用ヰルモ無效ナルヲ經驗シタカラデアリマス。盜汗ニ對シテハ「カルモチン」、「ズルフォナール」等ヲモ賞用シテ居リマス「カルモチン」ハ通常〇・七デ奏效シマス。咳嗽ニ對シテハ「パントポン」ニ代ヘテ近頃ハ「ナルコポン」、「アロポン」ヲ多ク用ヰマス「アロポン」ハ其效「パントポン」ニ劣リマスガ「ナルコポン」ハ同一ニ效キマス、而シテ兩者トモ國產デスカラ經濟上有益デアリマス。喀血ニ對シテハ「ゲラチン」ノ皮下注射ヲ屢〻用ヰマス。每回二〇瓩罕ニ四〇・〇瓩ヲ注射シマス又屢〻空洞內ヘ鹽化「アドレナリン」液〇・五瓩ヲ注射シ確實ニ止血シ得マシタ。又肩癖ヲ患者ガ訴フル場合ニ患部ノ水泡音ノ增加シテ居ルコトガ往々有リマス卽チ胃又ハ神經的症候ノミデハアリマセン。

田澤博士ハ頭部ヲ冷氣ニ觸レシムレバ全身皮膚ノ强練法ト成ルト說カレマシタガ私ハ矢張リ全身ノ皮膚ヲ强練スベク卽チ寒冷ニ觸レシムベク勉ムベキコト、考ヘマス、頸卷ヲ用ヰテ居ル者ガタマ〳〵之ヲ外ヅセバ感冒スル場合ガ屢〻アリマス、外氣中ニ居ルト溫保シテ居テモ風ガ織物ヲ透シテ身體皮膚ニ達スルカラ多少被覆部ノ强練法トモ成ルコトガデキ

マス。又東京デハ空氣ノ溫度ト同時ニ濕度ガ增加スルト說カレマシタガ、茅ケ崎デハ之ニ反シテ空氣ノ濕度ハ溫度ト反對ニ減少スル場合ガ多イノデアリマス。

七

井上門司

(1)「クロールカルチユーム」ノ靜脈內注射ニ三乃至一〇%ノモノヲ御使用ニナルト言フ御話デシタガ私ハ多年ノ經驗上只今デハ少シ稀薄ナモノ卽チ普通二%ノモノヲ注射スルコトニシテ居リマス。單ニ Exsudations hemmung 丈ケノ目的ナレバ濃厚ナルモノヲ使フ程ヨイ譯デアリマスガ、濃厚ナルモノヲ反復注射シマスト却テ刺戟ガ强クテ全體ノ經過ニ惡影響ガアル。寧ロワイヒハルト氏ノ Protoplasma-aktivierung ノ意味デ比較的稀薄ナモノヲ適當ニ反復注射シタ方ガ結核患者ニハ安全デ而モ有效デアリマス。此ノ意味ニ於テ經驗上二%ノモノヲ注射スルノガ最モ適當デアルト信ズルノデアリマス。

(2)結核患者ニ比較的輕症ナ脚氣ガ合併シコレガ知ラズ知ラズノ間ニ患者ノ豫後ニ對シ甚大ノ影響ヲ及ボシテ居ル例ハ吾人ノ臨牀上、屢〻經驗スル處デアリマス、私ハ少ナクトモ本邦ニ於テハ御話シノ結核ノ合併症黴毒、寄生蟲ヨリ、ヨリ以上ニ脚氣ノ有無ヲ檢索シ之ヲ出來ル丈ケ早ク治療スルコトガ極メテ必要デアルト考ヘマス。

(3)寄生蟲病學者ノ中ニハ腸管內寄生蟲ノ「ワクチン」療法ヲ企テタ人ガマ、アル樣デアルガ、之レガ十二指腸蟲ノ驅除ニ對シ甚ダ有效デアツタト言フ只今ノ御演說ハ吾人ニトツテハ一種ノ驚異ノ感ヲ抱カシムルモノデアリマス有馬博士ハソノ成績ヲ矢張リ該「ワクチン」ノ自働性免疫ノ結果デアルト信ジテ居ラレマスカドウカ此ノ點ヲ詳細ニ御伺ヒシタイ。

(4)結核患者ノ所謂肥滿療法ニ就テハ大イニ論ジテ見タイト思ヒマシタガ大體ニ於テ近藤乾郎博士ノ御高說ト一致シテ居ルカヲ更ニ駁辯ヲ弄スルコトヲ避ケマス

八

醫學博士 大村定吉

私ハ外來的ニ外氣療法ヲ應用シテ其效果ノ偉大ナルヲ確信スル一人デアリマス「サナトリユーム」ヤ療養所ナレバ設備ヤ監督モ行キ屆キマスカラ實行モ容易ナ譯ケデアリマスガ、外來的ニハ一々適當ノ方法ヲ指示シナケレバ口デ效果ヲ認タ

ダケデハ實行ガ出來マセン、第一ニ雨戸ヲ開放スルニ依テ起ル盗難デス是ヲ防グ目的デ私ハ荒キ金網ヲ張タ雨戸ヲ一二枚作ラセ、夫レヲ患者ノ牀ノ枕ニ當ル所ニ嵌メサセテ居マス階上殊ニ洋館抔デ盗難ノ患ナキ所ハ無論必要ハアリマセン、第二ニ防寒ノ用意デス富有ノ人ナレバ毛蒲團ヤ眞綿蒲團ヤ毛布抔隨意ニ取揃エルコトガ出來マスガ、廣ク一般ニ宣傳スルニハ何カ手輕デ確實ニ防寒ノ出來ルモノヲ與エナケレバ左ナキダニ寒サニ對シテ極度ニオビエツヽアル患者ヲ納得サセテ實行ニ導クコトハ出來マセン、田澤博士ハ是ニ對シテハ名案ガアリマスマイカ又療養所デハ如何ナル方法デ防寒サセマシタカ御尋ヲ申シ上ゲマス

九　醫學博士　竹山九郎

追加、新潟有明療養所ニ於テ大正十三年三月末開所以來、大部分ノ患者ニ（患者數平均三十五名ヨリ四十名前後）窓ヲ開放シ實行シ居レリ同所氣象等ニツキテハ明日ノ戸外臥牀成績報告ニ讓ル

十　醫學博士　長澤傳六

一、肺結核患者ニ「モルヒヲ」劑ヲ鎮咳ノ目的ニ用ユルコト多キニ拘ラズ中毒ヲ起スコトノ極メテ稀有ナル事實ハ有馬博士ノ意見ニ全然贊意ヲ表スルモノデアリマスガ、只一例五十八歳ノ男子輕キ糖尿病ニ合併セル肺結核ノ患者デ「ヘロイン」中毒ニカヽリ一回量〇・一乃至〇・一五ヲ最後迄用キタ一實驗例ヲ報告イタシマス。

二、「ヴィタミン」ト結核。之ハ結核ノ感染ト其ノ經過ノ上ニ至大ノ關係アリト考フル點ハ田澤有馬二君ト同意見デアリマス私ハ一歩ヲ進メテ日本國民ガ平素白米ヲ廢止シ半搗米ヲ用キテ榮養ノ不足ヲ補ハシムルコトニシタイト考ヘテ居ルモノデアリマスカラ、差支ナキ限ハ結核患者ニモ成ルベク半搗米ヲ用キサスヤウニスルコトヲ提言シタク考ヘマス

十一　醫學博士　有馬賴吉

我々ノ演說ニ對シテ先輩諸兄ヨリ有益ナル御附議御討論ヲ得マシタコトヲ厚ク感謝致シマス。

十二　醫學博士　田澤鐐二

我國ニ於ケル開放大氣療法ニ就テ近藤博士高田博士大村博士竹山博士等ヨリ御經驗談ヲ拜聽シ何レモ御同意見ナルハ喜

バシク感ズル所デアリマス。

ソレニ就キ大村博士ヨリ防寒ノ服裝ニ就テ御尋子ガアリマシタガ、之ハ極メテ重要ナ問題デアリマス、凡テ寒季ノ開放療法ハ其方法ニ就テ非常ニ細心ノ注意ヲ要シマスガ、今日ハ其方法ノ詳細等ハ略シマシタ。夜具服裝等ニ就テハ肩當テヲ當ラサセテ肩ヨリ風ノ吹キ込マヌ樣ニセシメタリ、雪デモ降レバ「ゴム」布ヲ布團ニ掛ケテ濡レナイヤウニシタリシマスガ、其他ニハ特別ナ服裝トイフモノハマダアリマセン。併シ有益ナ問題ダカラ同樣ニ考究ヲシタイト思ヒマス。家屋ノ金網戸ハ夏ニモ冬ニモ種々ノ點カラ有用デアリマス。

楢林君カラ太陽燈ノ御話ガアリマシタガ之ハ赤ク炎症性ノ反應ヲ起シ來ルト中止セヲバナラナイガ黑褐色トナルダケナラバ、心配アリマセン却テ良徴ト考ヘマス。

終ニ臨ンデ諸君ノ御討論ヲ感謝シマス